

自己評価結果報告 概要

2020年度

評価判定は、保護者アンケートを受けて職員それぞれが4段階（A 十分達成されている・B 達成されている・C 取り組まれているが成果が十分でない・D 取り組みが不十分である）に振り分け自己評価しI項目ずつ全体を平均したものを表記しています。

I 「保育の計画性」についての評価結果及び改善策

評価A

- 1 園の教育理念・教育目標の理解
- 2 幼稚園教育要領の理解
- 3 教育課程の編成
- 4 指導計画の作成
- 5 環境構成
- 6 評価・反省

という 6つの観点から達成度を振り返りました。

- ・経験年数に個人差があるもののそれぞれが手宮幼稚園の理念と目標を理解しようと努力しました。その事を踏まえたうえで保育計画を立てて実践してきました。一人で解決できないことは、他の保育者に相談することで新たな気づきも見られました。
- ・月案や日案の作成と計画実行が上手くいかず遅れることもあった、その為に次の準備に支障をきたすことがあった。
- ・保育者間での伝達や行事の取り組みでの情報が行き届かない場面があった。

《 改善策として 》

- ・情報共有を増やすために定期的な職員会議を行う。
- ・保育者間での伝達や仕事分担などを明確にすること、確認をすることで、思い込みや勘違いを軽減する。
- ・日々の反省や見返りをする時間が足りなくなることもあり、保育計画をそれぞれが見直す。

II 「保育者の在り方、幼児への対応」についての評価結果及び改善策

評価A

- 1 健康と安全への配慮
- 2 幼児理解
- 3 指導と関わり
- 4 保育者同士の協力・連携

という 4つの観点から達成度を振り返りました。

- ・新型コロナウイルス感染防止の為、園内の遊具や机、椅子、ドア等のアルコール除菌の徹底を行った。
- ・マスク着用、手の除菌、手洗いを徹底したことで今年度は、ノロウイルス感染やインフルエンザ等の流感を防ぐことが出来ました。

- ・朝、夕のお子さんの検温、職員の検温を行ったことで体調管理がしやすくなった。
- ・担任以外の大人との関わりも多く、大人からの影響も大きく受けやすい幼児理解を職員全体で共有する必要がある。
- ・子どもに寄り添い保育を行っていく中で、保育者の理想とクラスの育ち方のギャップに保育計画の変更をすることがあった。

《 改善策として 》

- ・保育補助も保育者も子どもの育ちの統一を必要とする中で全体での会議を開く。
- ・日々の保育に追われながらも子ども一人一人の見返りを大切にし、PDCAを意識することで現状を受け入れることが出来る。
- ・衛生管理に関しては、これからも続けていく。

Ⅲ「保育者としての資質と能力」についての評価結果及び改善策

評価A

1 専門家としての能力・姿勢・義務

2 組織の一員としての在り方

という2つの観点から達成度を振り返りました。

- ・新型コロナウイルス感染防止が念頭に置かれての保育でした。その中でソーシャルディスタンスをどのように組み入れて保育が出来るかを考えました。
- ・例年通りと言う概念を取り去り、現状で出来る事を模索し、運動会やお泊り会を中止することなく行うことが出来ました。
- ・保護者に対しては、幼稚園での出来事を細かに伝えるよう努力し、個別での対応も行い保護者が信頼してお子さんを預けられるよう努力しました。

《 改善策として 》

- ・保育者の経験年数の違いがある為、達成度の違いがある。保育者間の意識を共有するよう会議の時間を設ける。
- ・臨機応変に対応できるよう研修を積極的に受ける。

Ⅳ「保護者への対応」についての評価結果及び改善策

評価A

1 情報発信と受信

2 守秘義務の遵守

3 対応上のマナー・心がまえ

4 クレームへの対処の仕方

という4つの観点から達成度を振り返りました。

- ・クレームや困っていることなど問題点が生じた際には、懇談の時間を設ける。電話や個別に伺って問題点の解決に向けて対応した。
- ・非常事態宣言が出され、長い休園を余儀なくされた。子ども達の健康調査を踏まえて毎週、製作キッドを届け、動画配信も行った。

《 改善策として 》

- ・今年度は、3密を防ぐために出来なかったが、保護者と保育者が集まれる機会を増やす。
- ・PTA活動を積極的に応援しコミュニケーションの場として広めていく。
- ・幼稚園職員間での子どもの育ちの大切なことを見つめ直す研修を行う。

V 「地域の自然や社会とのかかわり」 についての評価結果及び改善策

評価B

- 1 地域の自然・人々とのかかわり
- 2 小学校との連携
- 3 子育て支援と地域への開放

という3つの観点から達成度を振り返りました。

- ・今年度は地域開放も途中から中止となりました。外部の方との関わりがとられない一年でした。
- ・小学校への参観なども新型コロナウイルス感染防止の為、行かれませんでした。
- ・夏は、気分を切り替えるために散歩に出かけましたが、マスクを外して歩くことへの抵抗があり園庭での遊びが中心となりました。

《 改善策として 》

- ・新型コロナウイルス感染に関して少しずつ変化が見られることで地域開放も積極的に行っていきたい。地域の乳幼児の保護者の方が気軽に育児相談が出来る公共の場となるよう努めたい。
- ・クラス別に散歩への計画を立てていく。
- ・小学校への参観も受け入れ態勢が整い次第伺う。また、引継ぎを通して小学校との連携を図っていきたい。

VI 「研修と研究」 についての評価結果及び改善策

評価B

- 1 研修・研究への意欲・態度
- 2 保育者としての専門性に関する研修・研究
- 3 今日的課題に関する研修・研究
- 4 園内の環境・遊具・教材に関する研修・研究

という4つの観点から達成度を振り返りました。

- ・数に限りはあったが、リモートでの研修を行うことが出来た。受け身で終わることなくレポートを書くことで自身に置き換えての学びとなった。
- ・オンライン研修を園内研修で行ったことで、それぞれの保育間を知ることが出来た。経験年数の違いで考え方が違うものを共有できた。

《 改善策として 》

- ・積極的に園内研修を計画的に取り入れ職員全体での話し合う時間を多く設けるように努力する。
- ・リモート研修が多くなる1年だが、計画的に取り入れていく。